

「フクシマ」を生きる私たちの原発再稼働を許さない声明

2014年3月11日

2011年3月11日、わたしたちは決して忘れることのできない、東京電力福島第一原子発電所における大事故を経験させられました。人類が経験したことのない「公害事件」は、日本が「安全神話」への「信仰」により頼み、傲慢にも、制御できない「核」の技術に浸り、命よりも、ただひたすらに経済的発展を第一として追い求めてきた帰結でした。環境に放出された膨大な放射能は人間のみならず、全ての環境を汚染し、3年たった今も事故は収束を迎える事なく、地球を汚染し続けています。わたしたちは今なお「フクシマ」を生きています。事故によって、多くの人々が故郷を奪われ、家族が離散することを余儀なくされてきました。またとどまる選択をされた方の多くが不安と苦悩を背負って歩いておられます。今を生きる子どもたちには、とてつもなく長い期間にわたる大きな不安が覆い続けています。

この事故を招いたのは東京電力や、原子力政策を「国策」としてひたすら進めてきた、政、財、官、学、マスコミなどからなるいわゆる「原子カムラ」です。「国策」そして「安全神話」への「信仰」は完全に破綻したのです。

しかし、2014年2月25日に政府が発表したエネルギー基本計画によると、原発を「重要なベースロード電源」と位置付け、安全性が確認された原発は「再稼働を進める」、さらに「核燃料サイクルを着実に推進する」と明記されています。まるで「フクシマ」などなかったかのような無反省な、エゴイズムの塊のような「国策」にわたしたちは憤りを禁じ得ません。

「ベースロード電源」という言葉は、従来通り、原子力（核）発電を最優先に考え、残りの電力を他の発電方法でまかなうという誤魔化しでしかありません。また政府や、電力会社、規制当局が豪語する、安全性を確認するための「世界一厳しい基準」という言葉も偽りに満ちています。東京電力福島第一原子力発電所では原子炉の中の状態も不明で、その「原因」ですら究明されていないではありませんか。それにも関わらずどうして「福島事故の反省の上に立った世界一厳しい基準」が策定できるのでしょうか。これは新しい「安全神話」に他なりません。この新しい「安全神話」の下に、原発を再稼働する事を断じて許すことはできません。また日本政府が目論んでいる原発輸出を断じて許すこともできません。どうして自分に制御できない未完成の技術を隣人に売ることができるのでしょうか。

さらに、あまりの危険性と不経済性から欧米各国が撤退した技術である、高速増殖炉「もんじゅ」は度重なる事故により運転できません。そして六カ所再処理工場も、度重なる操業延期で着工から21年を経て今もって未完成状態です。もはや、核燃料サイクルが破綻していることは誰の目にも明らかです。日本は今この時に撤退を決断すべきです。

今、日本政府がなすべきことは、東京オリンピックの招致によって世界に「安全宣言」を行う事ではなく、少なくとも「フクシマ」以前の法令に従って徹底的に子どもたちをヒバク環境から守ることです。そして全ての原子力（核）発電所を即時廃炉とする決断です。わたしたちは未来と共存できない「核のゴミ」（死の灰）を、もうこれ以上増やしたくはありません。もうこれ以上他者の犠牲の上にしか成り立たない「核」は要りません。わたしたちは平和の主イエス・キリスト、被造世界の創造主である神に従います。それ故断じて原発の再稼働も、輸出も、核燃料サイクルも許すことはできません。

日本バプテスト連盟 公害問題特別委員会